

### 87 甲状腺腫瘍の RI 診断：とくに<sup>197</sup>Hg, <sup>201</sup>Tl, <sup>67</sup>Gaの甲状腺 Scintigraphy の検討。

宮川 信, 小林 克, 代田廣志, 千賀 脩,  
菅谷 昭, 牧内正夫(信大, 二外)

われわれは甲状腺腫瘍の補助的診断法として、腫瘍親和性 Isotopes を用い、その診断率の向上につとめている。今回は、<sup>197</sup>Hg, <sup>201</sup>Tl, <sup>67</sup>Gaの甲状腺 Scintigraphy を行って検討したところ、組織型により RI の集積の異なることを見出し、鑑別に有力な補助診断であることを認めたので、その集積像の相違点とその集積機序について検討する。

<sup>197</sup>Hg では乳頭癌 81.3%, 濾胞癌 60%, 未分化癌 100%, 悪性リンパ腫 100% の集積陽性像が認められる。

<sup>201</sup>Tl では乳頭癌 86.7%, 濾胞癌 100%, 未分化癌 25%, 悪性リンパ腫 0% の集積陽性像が認められる。<sup>67</sup>Ga では乳頭癌 0%, 濾胞癌 0%, 未分化癌 100%, 悪性リンパ腫 100% の集積陽性像が認められる。以上をまとめてみると、癌が疑がわれる腫瘍で、<sup>197</sup>Hg, <sup>201</sup>Tl で集積があり、<sup>67</sup>Ga で集積が認められないものは分化癌であって、<sup>201</sup>Tl で集積がなく、<sup>197</sup>Hg, <sup>67</sup>Ga で集積が認められるものは未分化癌・悪性リンパ腫が強く疑がわれる。また、<sup>201</sup>Tl で集積があり、<sup>197</sup>Hg, <sup>67</sup>Ga で集積が認められないものは濾胞癌である可能性を示唆する成績を得たので報告し、さらに Hg の集積機序について検討したので述る。

### 89 気管支動脈内注入 <sup>201</sup>Tl chloride シンチグラフィによる肺癌の診断

利波紀久(金大・核) 渡辺洋宇, 佐藤日出夫(金大・1外) 利波久雄, 山本 達(金医大・放) 松井 修(金大・放) 道岸隆敏, 前田敏男, 分校久志, 小泉 潔, 松田博史, 中嶋憲一, 桑島 章, 多田 明, 一柳健次, 油野民雄, 久田欣一(金大・核)

<sup>201</sup>Tl-chloride に肺癌病巣を陽性描画する性質のあることを報告してきたが、<sup>67</sup>Ga-citrate との臨床成績の比較では <sup>67</sup>Ga-citrate に優る結果は得られていない。この <sup>201</sup>Tl の不満足な成績の最大の原因は、1度の灌流による腫瘍病巣への <sup>201</sup>Tl 供給量が乏しいことにあると考え、<sup>201</sup>Tl の供給量を増すために気管支動脈内に直接注入することを試みた。肺癌 12 例に診断ならびに治療の目的で施行した気管支動脈造影の際に生食 2~5 ml に希釈した <sup>201</sup>Tl 0.5~1.0 mCi をカテーテルを通して比較的ゆっくり注入したのち局所撮像をおこなった。本法により肺癌原発巣は 100% 描画されるとともに、気管支動脈支配の肺門ならびに縦隔転移リンパ節も鮮明に、しかも <sup>67</sup>Ga よりも高率に描画された。本法は、肺癌の肺門ならびに縦隔リンパ節転移巣の有無の検索に極めて有用な診断法と評価された。

### 88 縦隔腫瘍における <sup>201</sup>Tl-chloride シンチグラフィの評価 - <sup>67</sup>Ga-citrate シンチグラフィとの比較 -

坂田博道, 中條政敬, 城野和雄, 鳥袋国定, 篠原慎治(鹿大, 放)

縦隔腫瘍の核医学診断には、放射性医薬品として、従来より <sup>75</sup>Se-methionine や <sup>67</sup>Ga-citrate が用いられてきた。一方、心筋用として開発された <sup>201</sup>Tl-chloride は近年腫瘍スキャンにも応用され、甲状腺癌などの悪性腫瘍の診断にも広く用いられているが、縦隔腫瘍に関する報告はほとんどみられない。そこで、われわれは組織診の得られた種々の縦隔腫瘍 7 例について、<sup>201</sup>Tl-chloride による腫瘍シンチを行ない、集積の有無や程度に関して <sup>67</sup>Ga シンチと比較検討した。集積の程度は(+)、(+), (-)の3段階に分類した。

1) 悪性リンパ腫 2 例, 悪性胸腺腫 1 例では全例 <sup>67</sup>Ga (+), <sup>201</sup>Tl (+)であった。2) yolk sac tumor 1 例, Castleman's lymphoma 1 例では <sup>67</sup>Ga, <sup>201</sup>Tl ともに (+)であった。3) 良性奇形腫 1 例ではいずれも (-)であった。4) 縦隔腫瘍が疑われた甲状腺癌 (follicular adenocarcinoma) の縦隔リンパ節転移 1 例では <sup>67</sup>Ga (-), <sup>201</sup>Tl (+)であった。

症例数は少ないが、<sup>201</sup>Tl-chloride は縦隔腫瘍の診断にも有用であると考えられた。

### 90 子宮体部腫瘍の組織学的所見と <sup>201</sup>Tl - C I スキャン。

室井克夫<sup>1</sup>, 戸張千年<sup>2</sup>, 渡辺肇<sup>1</sup>, 野口昭二<sup>1</sup>, 大村剛<sup>1</sup>, 黒沢洋<sup>2</sup> (1: 東邦大・産婦, 2: 東邦大・放)

われわれは、<sup>201</sup>Tl - C I スキャンが子宮体部病変の検出に非常に有効性が高いことを報告してきた。しかし、本法は良性腫瘍・子宮筋腫にも取り込まれその悪性度の診断には注意を要する。今回、われわれは組織学的に明らかになった子宮体部癌 (11 例) の <sup>201</sup>Tl - C I スキャンの画像に検討を加えたので報告する。スキャン方法は、<sup>201</sup>Tl - C I の 2 m Ci を静注し、20 分後に Hg・X 線の 80 KeV で撮影した。その結果、子宮体部癌の組織学的所見は、腺癌 7 例, 腺類癌 3 例, 肉腫 1 例であった。画像の検討では、腺癌に最も強く取り込まれ、次いでほぼ同程度の腺類癌と肉腫であり、腺構造を有する腫瘍に強い取り込みが認められた。各々少ない症例数ではあるが、それぞれ特徴的な画像が得られた。また子宮腔の炎症を併発例は、中心にやや低い取り込みの像が得られ、<sup>201</sup>Tl - C I は炎症巣にも集積することも判明した。RI ミニコンピュータによりヒストグラムを検討すると <sup>201</sup>Tl は非常に早期 (ほぼ 20 秒程度) で腫瘍内に取り込まれ、また機能図は、<sup>99m</sup>Tc - アルブミンで腫瘍内集積はなく、<sup>201</sup>Tl で明らかに腫瘍内に取り込まれている結果が得られた。